

『論語』（仁・君子）確認テスト（漢文） | 定期テスト対策 | 誰でも古典塾 解答・解説

問1 こうげんれいしよく、すくなしじん。

※「鮮矣仁」は「仁鮮し」を強調した倒置で、「鮮（すく）なし仁（じん）」と読む。

問2 言葉を巧みに飾り、顔つき（表情）を愛想よくとりつくろう態度。相手に気に入られようとして、うわべだけをよく見せようとする事。

問3 少ない（ほとんどない）。「鮮（すく）なし」と読み、「めったにない」の意。

問4 （1）禁止（～してはならない、の意を表す）。（2）改むるに憚ること勿かれ

問5 「周」は誰とでも広く公平に親しむこと、「比」は特定の者とだけ私的に（利害でつながって）馴れ合うこと。君子は前者、小人は後者だという対比。

問6 義と利

問7 「君子」とは、仁や義など高い徳を身につけ、利益よりも正しさを重んじ（④）、人と協調しつつも安易に同調しない（⑦）、心の広い理想的な人格者をいう。これに対し「小人」は、目先の利益にとらわれ、私的な馴れ合いや付和雷同に走る徳の乏しい人物を指し、両者はつねに対比的に語られる。

問8 さとる。物事の道理がよくわかる、の意。

問9 徳は孤ならず、必ず隣有り。

問10 知者（知恵のある人）は流れ動く水を好み、活動的で人生を楽しむ。仁者（思いやりの深い人）はどっしりと動かない山を好み、落ち着いて静かであり、長生きする。動と静、水と山を対比させ、二つの理想像を描いている。

問11 「和」は、相手と仲よく協調しながらも、道理に反することには安易に同調しない態度。「同」は、自分の考えを持たず、ただ相手にあわせて雷同（付和雷同）すること。君子は「和」し、小人は「同」じる。

問12 己の欲せざる所は、人に施すこと勿かれ。

問13 「～するところ（のもの・こと）」。「動詞を体言化し、「(自分が) 欲しないこと (がら)」という意味を表す。

問14 君子は心が広く平らかで、いつものびのびとゆったりしている。一方、小人は（目先の利害にとらわれて）いつもびくびく・くよくよと思い悩んでいる。心の安らかさにおいて両者は対照的である。

問15 ①（巧言令色、鮮なし仁）

※⑩は飾らず実直な人柄を「仁」に近いとし、①は口先や表情を飾る者には仁が少ないとする。両者は正反対の内容である。

問16 過ちを犯したならば、ためらわずに（すぐに）改めなさい。

問17 君子は（何が）正しいかという義によって（物事を）理解し、小人は（自分の）利益によって（物事を）理解する。

問18 徳を身につけた人は決して孤立することはなく、必ずその人を理解し慕って集まってくる仲間（理解者）が現れる、ということ。

問19 人と仲よく協調しながらも、むやみに同調・迎合はせず、自分の主体性（信念）を保つこと。

問20 （現代語訳）自分がしてほしくないことは、（同じように）他人にもしてはならない。

（仁の内容）自分の身に置きかえて相手の気持ちを思いやり、自分が嫌なことは人にもしないという、思いやりの心。これが「仁」の具体的なあらわれである。

問21 「仁」とは、自分の欲を抑え、相手の立場に立って思いやる心（愛情）のこと。自分がされて嫌なことを人にしない（⑧）など、他者を大切に作る心のあり方を指す。